



8月の園だより

令和5年8月1日

目黒区立八雲保育園 園長

～生活する力が育つ夏～

せみの鳴き声に本格的な夏の暑さを感じる季節になりました。同時に、保育園には子どもたちが夏ならではの遊びを楽しむ声があふれています。

背丈を大きく超えるほど伸びた夏野菜を見上げながら、今日も1歳児がテラスで水遊びを楽しんでいました。今年から着衣のまま遊んでいます。Tシャツが濡れることも『ぜんぜん大丈夫』というように、バケツやジョウロの水しぶきを体いっぱい浴びて満面の笑顔です。そのうちに1人の児がお気に入りのジョウゴをタライに集め始めました。「そろそろお片付けかな。シャワーで（体を）温かくしようね」と保育士が声をかけます。シャワーの方へ向かうと同じように2人の子どもたちがベンチに座りました。じっと友達が準備をする様子を見て待っています。「温かいお湯出るかな」と着ていたTシャツを脱ぎ始めると見ていた隣の児も自分でズボンに手を掛けます。上手く脱げない時は「んっ～」と保育士に『手伝って』の合図をして、気付いた保育士が「一緒にね」と子どものサインに合わせて援助します。脱ぎ終えたズボンをどうするか見ていると、自分のマークが付いたかごに迷うことなく入れていました。入園当初は、よちよち歩きやハイハイをしていた1歳児が、友達の姿を見ながら生活の流れがわかり、自然と「自分から」動こうとしたり、「自分の順番」が来るまで待っていたりする姿に、毎日同じ場所や同じ行為を丁寧に繰り返し積み重ねている1歳児クラス保育の中で育まれている力を感じました。大人の思いばかりを先走らずに生活の中で『子どもが自分で気づいて行動しようとする』姿をこれからも大切にしていきたいと思います。

今夏も「目黒区のヒーローバス」を利用して、複数の私立保育園の子どもたちがプール遊びに来園しています。少しずつでも以前のように、同じ目黒区に育つ子どもたちがお互いに交流できる機会を増やせる1年になることを願っています。

8月の行事予定

身体計測 避難訓練
プールじまい（3・4・5歳児）

9月の行事予定

引き渡し訓練
身体計測 避難訓練

水遊びの手づくりおもちゃの紹介



ペットボトルに穴を開けてシャワーにしたり、容器から容器へ移し替えをしたりして水遊びを楽しんでいます。今回は紙パックを使った手作りおもちゃを紹介します。

パックを布ガムテープで細長くつなぎ合わせて樋（とい）を設置しました。



パックの底にストローを刺すと、ジョウロのように水が飛び出できます。たくさん溜めると水の勢いも変わります。



保育士の真似をしてカップやペットボトルで水を入れて、流れていく様子をじっと見つめ水の動きや形の変化を楽しんでいます。



プール遊びの様子

ペンギん組（3歳児クラス）

子どもたちは今年から初めて入る大きいプールがいつも楽しみで、始まる前から「まだ入らないの?」「早く入りたい」と言っています。いざたくさん水を目の前にすると少し緊張した表情をしていましたが、入水するとすぐに「わー冷たい」「バシャバシャしていい?」と言いながら、気持ちよさそうに水の感触を楽しんでいました。水の中では子どもたちそれぞれの個性が見られ、電車に変身する児、恐竜になる児、イルカになる児、ペンギンになる児と、思い思いの好きなものになりきって「先生見て〜!」と披露してくれます。これからも夏にしか味わえないプール活動や水遊びの面白さを、たくさん経験できるようにしていきたいと思います。



しろくま組（5歳児クラス）

保育士がプールの底にカラフルな宝石ビーズを入れると、子どもたちは夢中になってお気に入りの宝石の行方を目で追い、狙いを定めています。「潜って目をあけて取るからたくさん取れるよ」「顔をつけなくても足で取れるよ」と楽しみ方は子どもたち一人ひとり様々です。30個取ると意気込んでいた児は目標に届かなかったのですが友達が「これと合わせて一緒に数えてみよう」と声をかけてくれると、2人で数え始め「先生46個取れた」と嬉しそうに報告してくれました。プール活動や水遊びで開放感や水の心地よさを感じながら、いるかジャンプやけのびなど子どもたちがそれぞれの目標を見つけて、思いきり楽しんでいきたいと思います。



食育活動

いるか組（4歳児クラス）

苗植えをして、水遣りや傷んだ葉を取るなどなど、みんなで大事に育ててきたきゅうりを収穫しました。「うわー、重い」「何かチクチクするね」「いっぱいお水をあげたから大きくなったんだね」と言うとそっと手に取り、野菜の生長を確かめています。この日のメニューは“叩ききゅうり”です。袋に入れたきゅうりを子どもたちがめん棒で叩き、調味料を加えてさらに揉みこみます。手についてしまったごま油と醤油の香りを嗅ぎながら「いいニオイ、これ絶対美味しいよ。早く食べたいな」という姿に、楽しみにしている様子が伝わってきます。パクリと口に入れると、いつもよりもよく噛んで味わいます。「んー美味しい! 最高」そんな友達の言葉にきゅうりが苦手な子も小さな口でかじります。「あれ?なんか…美味しい」目を丸くし今度は大きなきゅうりを口に運んでいました。やはり自分たちで育てたからこそ格別な味だったようです。栽培を通して食への興味関心を広げ、食べる意欲に繋げていきたいと思ひます。

